

2-4 防災等（大学内・外を問わず）

1 地震

1995年には大阪・神戸で、2004年には新潟で大きな地震がありました。また、2011年3月には東日本大震災がありました。日本は地震の多い国です。とっさの時はどうするのか、あなたの避難場所はどこかなど、日頃から正しい心構えを持ち、いざというときはあわてず落ち着いて適切に行動してください。NHK（日本放送協会）では、大地震など大きな災害が予知される場合、テレビ放送の副音声とラジオ第2放送（周波数 693KHz）を通じ、英語で災害緊急放送を実施します。

地震に備えて

地震の被害を少なくするには、日頃の準備と心構えが大切です。

- タンスや本棚など転倒しやすい物は、器具で固定し、高いところに物を置かない。
- 消火器の用意をしておく。あるいは、消火器の設置場所を事前に確認しておく。
- 非常持出し品（応急医療品、日用品、貴重品など）を用意しておく。特に旅券（パスポート）、在留カードや保険証などはいつでも持ち出せるようにしておく。
- 本学や地域で行われる防災訓練に積極的に参加する。
- 家族がいる人は、お互いの連絡先や集合場所を決めておく。

地震が起きたら

激しい振動は長くてもおよそ1～2分で終わります。余震は一般的に本震より小さいと言われていきます。地震が起きたら、火事や大怪我などの2次災害をおこさないために次の行動をおこしましょう。

1. ガス器具や電気製品の火の始末をする。
2. 窓や戸を開けて、出口を確保する。ガラスや看板などが落下してくる危険があるので、あわてて外に飛び出さない。
3. テーブルや机の下などにもぐり、身の安全を図る。
4. テレビやラジオなどで正しい情報をつかむ。
5. 隣近所と声を掛け合い、お互い助け合う。
6. 室外では塀や門柱など倒壊する危険のあるものに近寄らない。

また、大学内の避難場所は

- 品川キャンパス＝グラウンド
 - 越中島キャンパス＝明治丸前広場
- です。居住地域の避難場所についても必ず確認しておいてください。

常時用意しておくの良い防災グッズ

ミネラルウォーター、保存食、懐中電灯、下着、薬、軍手、カイロ、マスク、タオル、ティッシュ、マッチ、ろうそく、紙コップ、紙食器、携帯ラジオ



2 火災予防

日本の住居は、極めて燃えやすい材料でできていることが多いので、火災予防には細心の注意が必要です。特に、外出する時と寝る時は、加熱器具、たばこ、ガスなどの火器類消火の確認をしてください。

火事が起きた時の対処法

- 局番なしの119（消防署）に電話するとともに、近所に知らせて消火の協力を求めましょう。
- 初期消火が大事ですが、限界は天井に火が届くまでです。消火に気をとられて逃げ道を火にふさがれないように注意してください。
- 油の入っている鍋に火が入った時は、水をかけずに消火器を使うか、大きなシーツなどを濡らしてかぶせます。
- 煙は有毒なので、濡れタオルで口を覆い、低い姿勢で逃げましょう。

3 安全な生活のための注意事項

日本は安全な国と言われていますが、夜道の一人歩きや知らない人を部屋に入れることは危険です。人気のない場所へ一人で行くことは避けましょう。また、夜遅く人気の少ない場所にある公衆電話ボックスで電話することも、できれば避けましょう。

日本の法律を知らないで法律違反をしてしまうと、逮捕されたり、強制的に出国させられることがありますので、以下の点に注意してください。

- 在留カードを常に携帯していないと罪になります。
- 資格外活動許可を得ないでアルバイトをしたり、やってはいけないとされる仕事をするとう国管理法違反になります。
- 自転車に2人で乗ったり、夜に無灯火で乗ったり、雨の日に傘を差して乗ったりすると警察官に職務質問されます。自分が防犯登録した自転車でないで逮捕されます。
- 護身のためにナイフを所持していると逮捕されることがあります。
- 在留カード、学生証、国民健康保険証などの身分証明書は、他人に貸すことも、他人から借りることも共に犯罪になります。

<自転車についての注意>

- 自転車の盗難が多くありますので必ず鍵をかけてください。
- 自転車に住所・氏名をはっきり書いておいてください。
- 自転車を買った場合は、販売店で防犯登録制度の手続きをしてください。
- 友人や先輩などから譲ってもらった場合は、譲渡証明書（様式は自由）を書いてもらい、自転車販売店で防犯登録制度の手続きをしてください。
- 放置自転車は、盗難車の可能性が高いので絶対に持ち帰らないでください。

<ドラッグについて>

現在の日本では大麻や麻薬及び向精神薬取締法をはじめとする法律により、大麻、覚せい剤、コカイン、ヘロイン、LSD、などの一切の薬物に関して製造、流通、販売、所持に厳しい規制がなされています。これらの薬物は、興味本位、自己満足、あるいは現実から逃避するため等の目的で使用されることがあります。このような行為は使用した本人の心と体を傷つけるだけでなく、家庭や社会に対しても様々な悪影響を及ぼします。また、身体、精神が健全な状態に戻るまでに適切な医療が必要となり、社会復帰に時間がかかります。薬物に関わる誘いには、断固とした態度で臨み、興味本位の軽い気持ちで手を出すことのないように節度ある学生生活を送りましょう。

犯罪、盗難・交通事故の通報（警察署：局番なしの110）

全国どこでも24時間体制で受け付けています。けが人がいる場合は、警察から救急車の手配もしてくれます。

110 通報の仕方

- 受話器を取り、電話機に緊急用ボタンがあれば、それを押してから110する。なければ、そのまま局番なしで110する。
- 交通事故か盗難などの犯罪かなどの状況を説明する。
- 事故・事件が起きた場所、またはあなたのいる場所の住所と近くの目印となる建物などを伝え、あなたの名前も伝える。



<ハラスメントの防止について>

大学では、ハラスメントに関する相談員を配置していますので、いつでも相談してください。相談員の氏名、連絡先等は、ホームページ、パンフレットで紹介しています。

<https://www.kaiyodai.ac.jp/student/inquirycounter/Harassment.html>